

# 西洋史コース卒業論文執筆要綱

## 1、全般的注意事項

①提出期限——〇〇〇〇年〇月〇〇日〇〇時

②提出場所——文学部事務室

③提出の仕方

- (1) **正本1部を仮製本（フラットファイル綴じ）のうえ文学部事務に提出する。** 試問終了後、一括して製本する。試問の際に製本代（2500円程度）を納めること。
- (2) 副本（コピー＝審査用）3部を仮製本して教員に提出する。＝正本と同じもの
- (3) 正本・副本とも表紙・背表紙・本文最初のページに以下の項目を記入する。  
コース名（西洋史コース）、論文題目、学部、卒業年度、学籍番号、氏名（ふりがな）
- (4) **口頭試問を行なう。** 日時は追って連絡するので必ず出席すること。

## 2、論文の形式

- ①ワープロで執筆すること。明朝体を原則とする（表題や強調したい部分にゴシック体を用いてもよい）。
- ②**B5判横書き**とする。**1ページ＝30字×20行**を原則とする。
- ③片面印刷とし、製本のための余白を左端に3センチとること。
- ④本文の字数は**2万字程度**とする。註についてはとくに制限を設けない。
- ⑤各ページの下段中央にページ番号を打つ。
- ⑥論文は以下のような構成とする。——（5）以外は必須。
  - (1) 表紙（1ページ目）にコース名、論文題目、学部、卒業年度、学籍番号、氏名を記す。
  - (2) 目次——各章・節の表題とページを示す。
  - (3) 本文——章が変わるごとに改ページする。節の場合は2行分の余白をとる。
  - (4) 註——出典や補足を本文とは別に記す。項目4参照
  - (5) 参考資料（図版・表・地図など）。必要に応じて入れる。小さなものは本文中に入れてもよい。
  - (6) 参考文献一覧——論文作成にあたって使用した史料・文献を列挙する。項目6参照

## 3、表記

①固有名詞（人名・地名など）は原語主義とする。

ヘンリー8世（イギリス王）、アンリ4世（フランス王）、ハインリヒ4世（神聖ローマ皇帝・ドイツ王）、エンリケ航海王子（ポルトガル）——英語だと全員 Henry です。

②特殊な人名・地名・事項は初出の際に、原綴りを付ける。ただし一般的なもの（ナポレオン、ロンドン、

国際連合など)には付ける必要はない。

ケカウメノス (Kekaumenos)、トレビゾンド (Trebizond)、選抜徴兵法 (Selective Service Act)

### ③数字とアルファベット

数量・年代を表すにはアラビア数字を用いる。ただし、億・万などの単位は漢字を用いる。

1688年。ただし 123,456,000 人⇒1億 2345 万 6000 人

数字とアルファベットは原則として半角文字とする。ひとけたの数字は全角。

### ④欧単語を行末で折り返す(=切る)際には分綴に注意すること。各国語辞典を見よ。

his・to・ry=・のあるところ以外で切ってはいけない。hi・story (×) hist・ory (×)

### ⑤略記——正式名称が長く表記が煩雑な固有名詞は略記してよい。初出時に原綴りを付したうえで、略称を明記すること。

黒人向上全国協会 (National Association for the Advancement of Colored People : 以下 NAACP と略記する)

## 4、註

### ①文献註 (引用箇所の出典表示、叙述のもととなった史料・文献の表示) と説明註 (本文の補足など。なお表記方法は本文に準じる) を一括して本文の末尾に挙げる (文末脚注)。

### ②註の付け方

本文の該当箇所 (右肩) に註番号を付ける。論文末にその註番号を記し、註を書く。

※ワードの場合、「参考資料」⇒「文末脚注の挿入」をクリックすると、自動的に本文に註番号が入り、註記入画面になる。註番号は1、2、3……とすることが望ましい。

註番号は論文全体で通し番号とする。

## 5、文献註の表記方法

### ①日本語文献の場合

(1) 単行本——著者 (编者)、書名、出版社、出版年、参照ページ

北村昌史『ドイツ住宅改革運動——19世紀の都市化と市民社会』、京都大学学術出版会、2007年、57～60ページ。

(2) 翻訳書——原著者、書名、訳者、出版社、出版年、参照ページ。

R.ザッペーリ『妊娠した男——男・女・権力』、大黒俊二他訳、青山社、1995年、195ページ。

(3) 雑誌論文——著者、論文名、掲載雑誌名、巻号、刊行年、参照ページ。

中野耕太郎「合衆国労働党に関する一考察——第1次大戦後の社会改革運動——」、『史林』80巻1号、1997年、85ページ。

(4) 論文集所収の論文——(論文の)著者、論文名、(論文集の)編者、書名、出版社、出版年、参照ページ。

井上浩一「墓所・葬儀からみたビザンツ皇帝権」、笠谷和比古編『公家と武家Ⅲ——王権と儀礼の比較文明的考察』、思文閣出版、2006年、395～425ページ。

(5) 備考

書名、雑誌名は『 』で、論文名は「 」で括る。上記(1)～(4)参照

出版年は原則として初版の年を記す。増補・改訂版を用いた場合は増補・改訂版の出版年を記す。

外国人の名前はカタカナで表記する。ファーストネームは頭文字(アルファベット)のみでもよい。

上記(2)参照

※HPからの引用は上記に準じ、最後に当該HPのURLと参照した日付を記す。

佐藤彰一「ポスト・ローマ期ヨーロッパの表象構造——コミュニケーション行為の歴史的考察

(1) ——」、3～5ページ (<http://ocw.nagoya-u.jp/files/53/lecturenotes.pdf>、〇〇〇〇年〇〇月〇〇日)

## ②外国語文献

(1) 単行本——著者(編者)、書名、出版社 and/or 出版地、出版年、参照ページ。なお出版社・出版地、出版年は( )で括ってもよい。

John Higham, *Strangers in the Land: Patterns of American Nativism, 1860-1925* (Rutgers Univ. Press: New Brunswick, 1955), pp.163-165.

(2) 雑誌論文——著者、論文名、掲載雑誌名、巻号、刊行年、参照ページ。

A. Rein, "Bismarcks Afrika-Politik," *Historische Zeitschrift*, Bd. 160, 1939, S. 78-89.

(3) 論文集所収の論文——(論文の)著者、論文名、(論文集の)編者、書名、出版社 and/or 出版地、出版年、参照ページ。

M. Angold, "The Decline of Byzantium seen through the Eyes of Western Travellers," in R. Macrides, *Travel in the Byzantine World*, (Aldershot, 2002), pp.213-232.

(4) ページの表記

引用が2ページ以上にわたる場合はpp.を用いる(1ページだけの場合はp.)。ドイツ語文献の場合はS. (=ページ)、ロシア語文献の場合はстр. (=ページ)を用いてもよい。

(5) 雑誌の巻数表記

一般にvol.を用いるが、ドイツ語文献の場合Bd. フランス語文献にはt.を用いてもよい。

(6) 備考

書名・雑誌名はイタリックで表記する。論文名には“ ”を付ける。上記(1)～(3)参照

出版年は原則として初版の刊行された年を記す。増補、改訂版を用いた場合は増補、改訂版の出版

年を記す。出版社名は省略してもよい。

外国語の図書の場合、出版地・出版社・発行年を記した奥付は書物の最初にある。

※HPからの引用は上記に準じ、最後に当該HPのURLと参照した日付を記す。

### ③孫引き（直接読んでいない文献を、他の文献の引用からさらに引用すること）

原則としてしてはならない（日本語文献の孫引きは認めない）。外国語文献・史料でやむを得ず孫引きする場合は、次のように文献註を付ける。

The Chicago Federation of Labor, “Labor’s Fourteen Points,” *New Majority*, vol. 1, No.5 (February 1, 1919), p. 6. (中野耕太郎「合衆国労働党に関する一考察——第1次大戦後の社会改革運動——」、『史林』80巻1号、1997年、85ページより引用)

※*New Majority* に載った史料を中野論文で読んで引用する場合。

### ④前掲書、前掲論文の略記

文献註は初出の場合のみ書誌データをすべて表記し、それ以降は引用文献が特定できる範囲内で省略する。

#### (1) 直前の註と同じ文献を続けて引用する場合

日本語文献——同、57ページ。

外国語文献——*Ibid.*, pp.57-5. (書物の場合は *Ibid.* もイタリックにする)

#### (2) 前に一度引用した文献を（あいだに別の文献引用を挟んで）再び引用する場合。

日本語文献——北村前掲書、156ページ。中野前掲論文、39ページ。

外国語文献——Higham, *op. cit.*, pp.51-55. (書物の場合、*ibid.* や *op. cit.* もイタリックにする)、  
A. Rein, *op. cit.*, S. 80. (雑誌論文なのでイタリックにしない)

#### (3) 同じ著者の文献を複数用いている場合——前掲書・前掲論文では、どの書物・論文かわからないので、わかる程度に略記する。

日本語文献——北村『住宅改革運動』、177ページ。※『住宅』だけでよいかもしれません。

外国語文献——Higham, *Strangers*, pp.51-55.

## 6、参考文献一覧——論文末尾に必ず付ける。

(1) 日本語文献、外国語文献の順で表記する（それぞれ原史料と研究文献に分けてもよい）。

(2) 日本語文献は著者の五十音順、外国語文献は著者のアルファベット順にリストアップする。

(3) 図書は、①著者、②書名、③出版社（出版地）、④出版年、の4つの書誌データ、雑誌論文は、

①著者、②論文名、③掲載雑誌名、④巻号、⑤刊行年、⑥掲載ページ、の6つの書誌データを記す。